

令和元年度 第1回 富津市文化財審議会会議録

1 会議の名称	令和元年度 第1回 富津市文化財審議会
2 開催日時	令和元年7月18日(木) 13時30分～16時00分
3 開催場所	富津市役所 4階 401会議室
4 審議等事項	議題 (1)平成30年度文化財審議会事業報告について (2)平成30年度文化財保護事業実施状況報告について (3)令和元年度文化財保護事業計画について (4)令和元年度文化財審議会事業計画(案)について (5)「鋸山」日本遺産申請内容(素案)について
5 出席者名	審議会委員 相山林継 川名 興 小坂一夫 高梨 正 鈴木順一 濱名徳順 高橋 克 筑紫敏夫 笹生 衛 小澤 洋 事務局 岡根 茂 笹生忠弘 當眞嗣史 伊藤伸久 桐村修司 佃 沙奈 金木佑天
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人(定員 5人)
9 所管課	教育部 生涯学習課 文化係 電話 80-1342
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
<p>當眞 生涯学習課長</p>	<p>皆様こんにちは。 会議に入ります前に、桐村より配布資料の確認をさせていただきます。</p>
<p>桐村副主幹 (事)文化係長</p>	<p>～資料確認～</p>
<p>當眞 生涯学習課長</p>	<p>定刻となりましたので、ただいまより会議を始めさせていただきます。 委員の皆様方には、公私ともに何かとお忙しい中を御出席いただきまして、誠にありがとうございます。 本日の進行を務めさせていただきます、生涯学習課長の當眞でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>会議に入ります前に、本日の出席委員についてご報告させていただきます。</p> <p>委員総数 10 名のうち、出席委員 10 名であります。従いまして、富津市文化財の保護に関する条例第 27 条第 2 項の規定により、過半数を超えておりますので、本会議は成立いたします。</p> <p>それでは、ただいまより令和元年度第 1 回富津市文化財審議会を開催いたします。</p> <p>はじめに、岡根教育長より皆様に御挨拶申し上げます。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>改めまして、皆様こんにちは。 大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。 今、日本国中の日照時間が少なくなっているということで、記録的ではございますが、これからまた暑い夏を迎えますので、皆様も体調の変化等がないようにしていただければと思います。</p> <p>本日は、昨年度の事業報告について、今年度の計画について、そして、「鋸山」の日本遺産申請内容(素案)について、ということであります。</p> <p>忌憚のない御意見をいただきたいと思ひます。 どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>當眞 生涯学習課長</p>	<p>続きまして、相山会長より御挨拶を頂戴いたします。</p>
<p>相山会長</p>	<p>本日は、お忙しい中、また、天候がいまだ不順な中ではあります、全</p>

<p>當眞 生涯学習課長</p>	<p>員のお集まりいただきまして誠にありがとうございます。 どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>ありがとうございます。 本日の会議は、富津市情報公開条例に伴いまして、公開となります。 また、事務局用の記録作成のため録音をさせていただきますので、御了承願います。</p> <p>それでは、これよりは梶山会長に会議を進めていただきたいと思いますので、議長をよろしくお願いいいたします。</p>
<p>梶山会長</p>	<p>はじめに、会議録署名人を指名させていただきます。 鈴木委員と小澤委員の両名を指名させていただきますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>(異議なしの声)</p>
<p>梶山会長</p>	<p>ありがとうございます。 それでは、これより議題に入りたいと思います。 議題(1)「平成30年度文化財審議会事業報告について」、事務局の説明をお願いいたします。</p>
<p>桐村副主幹 (事)文化係長</p>	<p>資料1 ページ目を御覧ください。 ～『平成30年度文化財審議会事業報告』に沿って説明～</p> <p>平成30年度文化財審議会事業報告について報告いたします。 昨年度は、文化財審議会を2回開催いたしました。</p> <p>第1回審議会は、平成30年7月24日(火)、富津市役所5階502会議室にて開催。議題としては5件。 (1)平成29年度文化財保護事業報告について (2)平成29年度文化財審議会事業報告について (3)平成30年度文化財保護事業報告について (4)平成30年度文化財審議会事業計画(案)について (5)鋸山の文化財指定について</p> <p>第2回審議会は、平成31年3月19日(火)、富津市役所4階401階議室にて開催。議題としては2件。 (1)内裏塚古墳群の保存整備について (2)鋸山文化遺産指定・認定に向けて</p>

文化財審議会の事業報告については以上です。

梶山会長

ありがとうございます。
これについて、何か御質問等はございますか。

ないようですので、次の議題に進みます。

議題(2)「平成30年度文化財保護事業実施状況報告について」、事務局の説明をお願いいたします。

桐村副主幹
(事)文化係長

2ページを御覧ください。
～『平成30年度文化財保護事業実施状況報告』に沿って説明～

○天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業
実施額 2,460,000円
(君津市・富津市の共同事業、総額4,473,000円)

年2回の被害防止管理委員会と年数回の事務局会議を開催しております。

事業概要：①被害防止
②生態調査と個体数管理
③生息環境調査

事業委託先：天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止
管理事業調査団

○市内遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）
実施額 2,153,709円
(うち、153,709円は補助対象外、試掘用重機借上げ料及び事務機器借上げ料)
補助事業費 総額 2,000,000円

個人住宅建設に伴う確認調査
(発掘調査)

遺跡名	調査面積
飯野陣屋三の丸跡	30㎡／302.17㎡
飛附遺跡	26㎡／240㎡
計2件	56㎡／542.17㎡

(整理作業)

平成28・29年度に調査した計6遺跡の整理作業
青木亀塚古墳・亀塚遺跡、富士見台遺跡11、富士見台遺跡12（平成28年度調査分）

松原古墳、飯野陣屋二の丸跡、北笹塚遺跡（平成 29 年度調査分）
『平成 30 年度富津市内遺跡発掘調査報告書』の刊行

○民間開発発掘調査事業（市教委直営）

実施額 1,342,571 円

株式会社小島建設宅地造成事業に伴う確認調査

(発掘調査)

遺跡名

調査面積

打越遺跡

940 m² / 9,680.62 m²

(整理作業)

発掘調査報告書作成に向けた基礎整理作業

○民間調査機関実施

市道山王下飯野線道路改良工事に伴う民間発掘調査

※富津市と(有)勾玉工房 Mogi との契約による

実施額（建設経済部予算）

(整理作業)

遺跡名

調査面積

飛附遺跡

712 m² (H27 調査)

下谷遺跡 I

638 m² (H27 調査)

下谷遺跡 II

1,018 m² (H28～29 調査)

下谷遺跡 III

605 m² (H29～30 調査)

市道小久保岩瀬線道路改良工事に伴う民間発掘調査

※富津市と(有)勾玉工房 Mogi との契約による

実施額（建設経済部予算）

(整理作業)

遺跡名

調査面積

上鯉田横穴

228 m²、横穴 1 基（本調査）

『上鯉田横穴発掘調査報告書』の刊行

宗教法人成田山木更津教会墓地造成事業に伴う民間発掘調査

※成田山木更津教会と(有)勾玉工房 Mogi との契約による

(整理作業)

遺跡名

調査面積

前三舟台遺跡

638 m² (H29 調査)

『前三舟台遺跡発掘調査報告書』の刊行

ここで、佶から調査内容について、簡単に報告いたします。

佶文化財主事

市内遺跡ほか発掘調査事業について、説明させていただきます。

平成 30 年度市内遺跡発掘調査事業の飯野陣屋三の丸跡、飛附遺跡は、

個人住宅の建設に伴うものです。

近世の溝、耕作跡等が検出されています。

お手元にお配りした『平成30年度富津市内遺跡発掘調査報告書』の中に28・29年度に調査した6遺跡の調査内容がまとめてあります。

私からこの6遺跡について簡単に説明させていただきます。

平成28年度に調査した3件については、いずれも個人住宅の建設に伴う確認調査です。

青木亀塚古墳・亀塚遺跡については、前方部南側の周溝部を調査しております。

奈良・平安時代以降の溝6条、古墳時代以降の溝1条が検出されています。過去の調査でも青木亀塚古墳の全容を解明するために周溝部分を調査していますが、今回も耕作土が検出されています。また、平成27・28年度に実施した三枝病院の新築に伴う調査でも、周溝範囲で道路状遺構が検出されるなど、いずれも前方後円墳の全容解明には至っておりません。

富士見台遺跡11・12について、君津郡市文化財センターが実施した調査以降の11・12回目の調査です。富士見台遺跡の南西側南部を調査しています。いずれも、縄文時代早期から古墳時代中葉にかけての各時代の遺物、主体的には、縄文時代後期の堀之内1式期の遺物が多く出土しています。

特筆すべき点としては、堀之内1式期の埋設土器が完形で出土しております。

また、富士見台遺跡12では、富士見台1号墳・2号墳と検出されましたが、新たに3号墳となる円墳の周溝部が検出されています。

平成29年度にも3件調査を行っていますが、松原古墳と北笹塚遺跡7については、個人住宅の建設、飯野陣屋二の丸については、小規模宅地造成に伴う確認調査を行っております。

松原古墳については、白狐川流域の数少ない高塚古墳で、今回が初めての調査です。周溝の内側の立ち上がりも明瞭に検出されており、復元された範囲としては、内径22.5m、外径32.5mです。30m以上の円墳ということで、流域の統率者級の墳墓と考えられる成果が出ています。

飯野陣屋二の丸跡については、基本的に近世の区画溝や土坑等が検出されておりますが、一つだけ幅2mほどの調査区内の南北に長く走っており、これについては飯野陣屋建設以前の古代・中世の溝と思われます。

北笹塚遺跡7も基本的には近世の溝等が検出されております。

民間開発発掘調査事業、打越遺跡についてですが、市役所南東側で調査を実施しました。基本的に弥生時代後半から古墳時代前期にかけての集落

跡の予定で調査を行いました。埴輪の出土があり、精査を行い、現在、報告書作成のための整理作業を行っています。

山王下飯野線の道路改良工事に伴う発掘調査ですが、確認調査は市の直営で実施しております。現在、飛附遺跡・下谷遺跡ともに(有)勾玉工房 Mogi に整理作業を行っていただいているところです。

お手元に『平成 27 年度 (有)勾玉工房 Mogi 調査』をお配りしましたが、成果報告といたしまして、飛附遺跡で調査を行った結果、住居址から「佰姓」という文字の入った刻書土器の破片がかなり大量に出土しているということです。この点についても、まだ整理している段階ですので、詳細については、報告を待つという形になっています。

上鯉田横穴、前三舟台遺跡については、本報告として調査報告書がありますので、こちらを参照していただきたいと思います。

以上です。

桐村副主幹
(事)文化係長

事業報告に戻ります。

○文化財周知板設置事業

実施額 364,500 円

文化財説明板の新設 4ヶ所

- 1 木造阿弥陀如来坐像 (西川・福恩寺)
- 2 佐貫城跡 (佐貫・佐貫城跡)
- 3 吾妻神社馬だし祭り (西大和田・吾妻神社)
- 4 " (西大和田・吾妻神社入口道路案内板)

○指定文化財管理事業 (報償費)

実施額 109,200 円

県指定物件 5 件、市指定物件 15 件、計 20 件に対する維持管理費を報償費として支出

○指定文化財保存整備事業 (補助金)

実施額 1,000,000 円

県指定文化財 三柱神社本殿の修復工事に伴う市補助金

総事業費 10,022,400 円

(内訳) 5,000,000 円 (県補助金)

1,000,000 円 (市補助金)

4,022,400 円 (所有者負担金)

解体作業 H28

再建作業 H30～R 7 (8 か年事業)

○文化財・文化財施設環境整備事業

実施額 498,960 円

弁天山古墳墳丘、上野塚古墳墳丘、内裏塚古墳前方部周溝、千種新田収蔵庫周辺、笹塚1・2号墳墳丘、亀塚古墳草刈

○青堀駅東口史跡情報案内所「古墳の里ふれあい館」整備活用事業
実施額 561,600円
(内訳) 清掃委託料 399,600円
自動ドア修繕料 162,000円

○文化財収蔵物等運搬事業
実施額 950,000円
文化財収蔵庫の引越に伴う遺物運搬業務委託
搬出元 旧第二庁舎収蔵庫・湊収蔵庫
搬出先 旧環南小体育館

以上で報告を終わります。

相山会長

議題(2)について、何か御質問等がありますでしょうか。

笹生委員

飛附遺跡の調査成果の報告について、古代なので「百姓」の読み方は「ひやくせい」になるかと思いますが、これは刻書ですか。
焼成前に見えますので、ヘラ書きではないかと思います。
刻書は焼いた後に刻むもので、焼成前だとヘラ書きになりますので、大きく意味が変わってきます。

この「百姓」と書かれているのは、ほとんどが甌(こしき)ですね。これは少し異常なものだと思います。

佃文化財主事

まだ整理段階ですが、煙導に沿って出土しています。ただし、焼土のラインと出土している層が層位的に重なりませんので、報告の段階で検証しているというところでした。煙導に沿っていけば重ねて煙突等に使っていたのではないかと、ということです。

笹生委員

煙突ですか。
それから、刻書かヘラ書きかはっきりさせたいと思います。
おそらく、これはヘラ書きではないかと思われます。

相山会長

拓本の状態からしても、これはヘラ書きでしょうね。

笹生委員

これだけしっかりと書き順が見えるというのは、刻書ではなくヘラ書き

	<p>だと思えます。</p> <p>ヘラ書きということは、一括してこの場所、もしくは近くで焼成しているということになりますから、このような例はあまりありませんよね。</p> <p>おそらく、作った場所で字を書いて、その後で焼くという手順をとっていると思えます。</p> <p>それから、これは8世紀後半ぐらいまで遡れると思えます。</p> <p>近くで焼いて、焼いた人か甕の造形が出来る人が「百姓」という字を知っていて、それなりに字を書けたということです。</p> <p>また、手慣れた字を書いているように感じます。これは、それなりの人かと思えます。</p> <p>富津では、狐塚遺跡で8世紀後半の墨書での文字資料が出ていますので、意外と識字層が多かった可能性があります。今までよくわかっていなかったのですが、市内の古代の実際の文字資料、「許世」・「古世」などですね。横穴しかあまり知られていませんが、これは確実な文字資料になりますので、よく観察をしていただきたいと思えます。</p> <p>それから、勾玉工房も調査は慣れていると思えますが、よく見ていただきたいと思えます。</p> <p>私が気になったのは、水田の遺構検出が少し心許なかったです。私も現場で線を描きましたが、水田面はしっかりと検出されていましたか。</p> <p>現場は慣れているとは思いますが、北総の方々なので、低地を掘っている人間からすれば少し心許ないと感じましたので、市役所からもよく確認をしていただきたいと思えます。</p> <p>せっかくお金をかけていますので、環境関係のデータが落ちてしまうと低地での調査に意味がなくなってしまいます。</p> <p>それから、下に井戸があると思えますが、このような例は非常に重要です。もし、報道発表するようなことがあれば、そのときにも情報を整理した上でしていただきたいと思えます。</p> <p>これは非常に意味のある成果だと思えますので、よろしく願いいたします。</p>
梶山会長	この塚状のものは何ですか。石がありますが。
笹生委員	これは塚ではなく、おそらく井戸だと思えます。井戸が埋まった上に堅穴住居がありますね。
梶山会長	「百姓」のものは10個体以上ありますね。
笹生委員	これはみな規格で作っていますよね。あまり時期差はないと思えます。

	<p>ヘラ書きならばこの近くで焼いていますので、煙突にする意図で作っている可能性もありますよね。これだけでも非常に面白いです。</p>
佃文化財主事	<p>先ほどの、煙導に沿っていますが層位が合わないということについては、内面にはほぼ煤が付いています。</p>
梶山会長	<p>では、煙突に使っていますね。</p>
笹生委員	<p>確実に使っていますね。</p>
佃文化財主事	<p>ただし、取上げの段階で文字がわかればよかったのですが、その段階がずれてしまい、接合作業がかなり膨大な破片資料になってしまっているということです。個体数としては相当な量になっていると思います。</p>
笹生委員	<p>民間調査期間の良いところと悪いところですよ。どうしてもそれは出てきてしまいますね。 すみません、ありがとうございました。</p>
梶山会長	<p>他に何かございますか。</p>
小澤委員	<p>「百姓（ひゃくせい）」とは、どのような意味なのですか。</p>
笹生委員	<p>日本語風に言えば、「おおみたから」ですね。 様々な姓、万民ということです。</p>
梶山会長	<p>他に何かありますか。 私から質問ですが、佐貫城の説明板はどこに立てたのですか。</p>
小澤委員	<p>大手門のところですか。</p>
梶山会長	<p>大手門ですか。ありがとうございます。 あの場所は、史跡指定はされていませんが、良い遺跡ですし、市にも土地を買っていただいたので気になるところではありますが、なんとか利</p>

	<p>用・活用方法を考えなければなりませんね。</p> <p>佐貫城は、江戸時代の修理願の図面以外に近世の図面というのは残っているのでしょうか。私は見たことがありませんが。三の丸ばかりになるでしょうが。</p> <p>あの有名な絵図（『宝永七年佐貫城絵図』）は修理の絵図ですから、少し気になりますね。</p> <p>他に何かありませんか。</p>
笹生委員	飛附遺跡の報告書の刊行はいつ頃ですか。
佃文化財主事	今年度刊行の予定です。
笹生委員	わかりました。よろしく願いいたします。 私に協力出来ることがあれば、おっしゃってください。
梶山会長	勾玉工房はどこにあるのですか。
佃文化財主事	富里市です。
梶山会長	ありがとうございます。 他にありませんか。
	では、議題(2)は承認されたということで、先に進みます。
	議題(3)「令和元年度文化財保護事業計画について」、説明をお願いいたします。
桐村副主幹 (事)文化係長	<p>それでは、資料の5ページを御覧ください。</p> <p>○『令和元年度文化財保護事業計画』に沿って説明。</p> <p>令和元年度文化財保護事業</p> <p>○天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業 予算額 2,460,000円</p> <p>事業内容：①被害防止事業 ②生態調査と個体数管理 ③環境改変と生息環境調査</p>

事業委託先：天然記念物「高岩山のサル生息地」のサルによる被害防止管理事業調査団
前年度に引き続き実施いたします。

○市内遺跡発掘調査事業（国庫補助事業）

予算額 2,164,000 円

実施内容：個人住宅建設等に伴う確認調査

150 m²／1,500 m²

市内遺跡発掘調査報告書作成

調査主体 富津市教育委員会

○民間開発発掘調査事業（事業者負担分）

予算額 3,946,000 円

事業内容：各種民間開発事業に伴う確認・本調査

250 m²／2,500 m²（確認）

1,000 m²（本調査）

調査主体 富津市教育委員会

営利を目的とする各種の民間開発に対応するためのもので、予算は全額事業者負担となります。

○文化財周知板設置事業

予算額 75,000 円

事業内容：新指定文化財への新設及び既設周知板の老朽化に伴う付け替え 2か所

○指定文化財管理事業（報償費）

予算額 119,000 円

事業内容：県指定物件 6 件、市指定物件 16 件、計 22 件に対する維持管理費の一部助成。

○県指定文化財保存整備事業（補助金）

予算額 1,000,000 円

事業内容：県指定文化財三柱神社本殿の再建工事費の一部補助。

総事業費 10,208,000 円

（内訳） 5,100,000 円（県補助金）

1,000,000 円（市補助金）

4,108,000 円（所有者負担金）

○文化財・文化財施設環境整備事業

予算額 706,000 円

事業内容：内裏塚古墳周溝部・弁天山古墳・上野塚古墳・亀塚古墳・笹塚 1・2号墳草刈・千種新田収蔵庫周辺草刈

○青堀駅東口史跡情報案内所清掃委託

予算額 400,000 円

事業内容：古墳の里ふれあい館のトイレ清掃
委託先：富津市シルバー人材センターです。

○文化財史跡用地取得事業

予算額 4,220,000 円

(内訳) 3,848,000 円 (土地買上げ)

372,000 円 (不動産鑑定料)

対象地：①二間塚字内裏塚 1948 番 491 m²
②二間塚字内裏塚 2001 番 3 57.38 m²

6 ページを御覧ください。

令和元年度文化財保護関係予算についてです。

文化財保護費総額	15,621,000 円
文化財審議会関係費	160,000 円
文化財保護関係費	6,891,000 円
市内遺跡発掘調査事業	2,164,000 円
民間開発発掘調査事業	3,946,000 円
高宕山のサル被害防止事業	2,460,000 円

以上です。

梶山会長

委員の先生方、質問等はございますか。

私からですが、サルについては外来種が入り込んでいると聞いていますが、どうなのでしょう。

桐村副主幹
(事)文化係長

指定地の中とその周辺に外来種アカゲザルが見られるようになっており、実際に混血も進んでいると思われま。DNA鑑定でもそれらしい結果が出てしまっていますので、今のうちに手を打っておく必要があるということで、県自然保護課が主で動いており、県文化財課とも被害等の調査も行っています。

今までは、指定地内の固有種による被害を食い止める為の電柵設置等の事業でしたが、現在はそれだけに止まらず、アカゲザル等の対策もしていかなければならない状態です。

笹生委員

サルは地区指定ですよね。その地区の中にアカゲザルが入ってくるので困っているという話ですよね。

梶山会長

周辺のサルの捕獲というのはあるのですか。

シカを何頭、イノシシを何頭と、毎年捕獲しているようですが、サルは

	別なのでしょうか。
桐村副主幹 (事)文化係長	基本的に、指定地とその周りを取り巻いている準指定地というものがあるのですが、そこから出てしまったサルは猟友会で撃ってしまってよいということになっています。準指定地域外に出てしまったサルも我々が保護し、追跡調査対象にしているサルですが、撃たれてしまっても仕方がないものになっています。
梶山会長	昔はともかく、今となっては半分邪魔者になっていますからね。 先生方、他にありませんか。
高橋委員	毎年調査はしているようですが、調査の結果を見たことがないのですが、あるのでしょうか。
桐村副主幹 (事)文化係長	調査報告書というのは毎年作成しております。 15年ほど前までは冊子にして作っていたのですが、近年は紙刷りで簡易に製本しております。7月24日(水)に、サルの被害防止管理委員会がありまして、そこで昨年度の調査報告書が初めて公表されます。今年度第2回審議会のときには、資料として委員の皆様にお渡しするようにしたいと思います。
梶山会長	先生方、他にありませんか。 まだ7月ですが、開発行為というのはいかがですか。非常に少なくなってきたと思います。
佃文化財主事	確認調査の対象にならなくても、東電の電柱の届出と太陽光パネルが平成29年に一番多く、増えています。また、増税前の駆け込みか、個人住宅に伴う照会が例年に比べて多いかと思えます。 今年度は、市内遺跡で1件実施しております。このままいけば、報告書の刊行は来年に回し、市内遺跡の調査を今年度3・4件実施する見込です。
梶山会長	太陽光については、どのような取扱いをしていますか。
佃文化財主事	土地をいじらずにスクリー杭でソーラーだけを設置する場合は県の

<p>梶山会長</p>	<p>指導で工事立会ですが、切土や地盤改良などをする場合は調査対象になっています。</p> <p>ありがとうございます。 委員の先生方、他に何かございますでしょうか。</p> <p>ないようですので、議題(3)については承認されたことといたします。</p> <p>続いて、議題(4)「令和元年度文化財審議会事業計画(案)について」、事務局の説明をお願いします。</p>
<p>桐村副主幹 (事)文化係長</p>	<p>資料7ページを御覧ください。 ○『令和元年度文化財審議会事業計画(案)』に沿って説明</p> <p>令和元年度文化財審議会事業計画(案) 第1回：令和元年7月18日(木)、富津市役所 4階 401会議室 議題</p> <p>(1)平成30年度文化財審議会事業報告について (2)平成30年度文化財補助事業報告について (3)令和元年度文化財保護事業計画について (4)令和元年度文化財審議会事業計画(案)について (5)「鋸山」日本遺産申請内容(素案)について</p> <p>第2回は2月頃を予定しておりますが、議題としては、 (1)第10次富津市文化財指定について</p> <p>6月25日(火)、濱名委員に上(かみ)の正覚院、富津の医光寺それぞれの薬師如来坐像について調査をしていただきました。 上の正覚院については、高さ41cm、一木割矧造りで法衣垂下式の薬師如来で、14世紀南北朝時代の造像であるということです。 また、富津の医光寺については、高さ52.3cm、一木造りの薬師如来で14世紀前半頃、鎌倉～南北朝時代の造像であるという調査結果をいただいております。 いずれの仏像についても重要なものであるというお話をいただいておりますので、2回目の文化財審議会でも文化財指定について皆様に協議していただきたいと思います。</p> <p>また、報告として、秋の官報告示で内裏塚古墳の追加国指定が告示されます。</p> <p>その他として、これから皆様に協議していただきますが、日本遺産の本申請が終わった後に審議会となりますので、「このような形で申請しました。」という形で報告させていただきたいと思います。</p>

それから、議題(1)「第10次富津市文化財指定について」ですが、仏像以外に市内の発掘調査で発見された出土遺物の中にも重要なものがございます。

前三舟台遺跡の縄文時代草創期の遺物や岩井遺跡の縄文時代中期の石棒等についても御審議いただきたいと思います。

以上です。

梶山会長

説明が終わりました。

濱名委員、次の回での審議ということですが、現段階で何かありますでしょうか。

濱名委員

両方とも非常に洗練された物で、類例がいくつか見つかりましたので、大体の年代、何年頃というところまで言えるのではないかと思います。

ただし、両方ともそれほど大きなお像ではなく、おそらく安置された寺院も当初、それほど大きくはなかったのではないかと思います。

夷隅や山武などと比較すると、富津の場合は中小寺院にも洗練された鎌倉で製作された仏像が必ずといっていいほどあります。これは、富津という地域の特徴になるのではないかと思います。地域の仏師に製作を頼むよりも鎌倉の仏師に頼むほうが早い。下手をすると、千葉に行くよりも鎌倉に行ったほうが近いということで、比較的小規模な造像であっても鎌倉の一流の工房に発注しているようなものです。それはもう記録で確かめられることではありませんが、实例を見ていくとそのような感じがして、おそらく、これは富津の水運が中世に大きく発展して、そのような状況が生まれたのではないかと感じました。

名前のある人が建てたようなお寺に仏像があるということではなく、比較的、地域の小さな集落の中の寺院のようなところにまで洗練された仏像が入ってきているというのが非常に面白いと思います。

12世紀ぐらいの物は、私の見た限りでは比較的少なく、13・14世紀ぐらいになってから数が増えています。

そのような感じですか。

梶山会長

ありがとうございます。

現在の保存状況はどうでしょうか。

濱名委員

あまり良好とは言えませんが、劣悪ということでもありません。

小澤委員

正覚院の物は本来の正覚院ではなく、上(かみ)の和田ヶ谷というところ

	<p>ろにあった、光厳寺というお寺にあった物です。</p>
濱名委員	<p>ただし、和田義盛の時代とは年代が違いまして、14世紀後半、1380年代の造像だと思います。</p>
梶山会長	<p>和田義盛の伝承があるのですか。</p>
小澤委員	<p>その場所自体が和田館址という埋蔵文化財包蔵地になっています。その近くから宝篋印塔が出てきたりしています。</p>
梶山会長	<p>まだまだ発見されるだろうとは思いますが。よろしく願いいたします。</p>
小澤委員	<p>梶山会長、一つお伺いしたいのですが、過去の文化財審議会で仏像の悉皆調査などの話が出たことはなかったのですか。</p>
梶山会長	<p>しっかりとはやっていません。</p>
小澤委員	<p>まだまったく見たことがないような物があると思いますが。</p>
梶山会長	<p>あると思いますね。 それから、市史編纂のときも悉皆調査は一回もやっていません。 本当は地域を限定しながら、少しずつやったほうがよいのですが。</p>
笹生委員	<p>国指定で、内裏塚古墳群が史跡としては進んでいます、出土遺物の指定が意外と進んでいない気がします。 三条塚の資料や内裏塚の胡籙金具など、県史でかなり取り上げられて資料化されている物が具体的にありますので、物の散逸を防ぐ意味でも、少なくとも県史レベルで公開されて資料化されている物については、それを基準にしながら指定をする方向を考えたほうがよいかと思います。 墳丘ばかり残っていても、中から出てきた物は何も残っていないという状況になってもまったく仕方がありません。 三条塚から出てきた物などはしっかりと整理されています。それから、内裏塚の胡籙金具や鏝、雲珠など、内裏塚古墳群の副葬品類は墳丘とセットなので、散逸してなくなってしまうのでは話になりませんから。 それから、古代の文字史料、狐塚で奈良時代に富津に住んでいた個人名</p>

が3人もわかる史料が出ています。放置をしているとどんどん色あせていってしまいますので、それも指定対象に入れていただくとよいかと思います。実際、奈良時代の富津市に在住していた人の個人名がわかる史料というのはなかなかありませんから。

梶山会長

ありがとうございます。
委員の皆様、他に何かありませんか。

ないようですので、議題(4)は承認されたものといたします。

議題(5)「鋸山の文化財指定について」、事務局の説明をお願いします。

桐村副主幹
(事)文化係長

これについては、5月21日(火)に「「鋸山」日本遺産認定推進協議会」を立ち上げまして、2020年の認定に向けて鋸南町と共同で動き出しております。そのときの資料を委員の先生方に事前にお配りして、目を通していただいておりますが、これから、概要について伊藤課長補佐から御説明いたします。

伊藤生涯学習
課長補佐

5月21日に鋸南町と富津市の合同で、認定のための協議会が発足いたしました。

昨年末の審議会で代表として推薦いただきました、高梨委員にも御参加いただきました。

そのときの説明は、協議会のメンバーのほとんどが文化財の専門ではないため、根本のところから御説明いたしました。この審議会に関しては、昨年末の審議会で日本遺産の説明をしておりますので、皆様方に揉んでいただきたい内容について御説明させていただきたいと思っております。

資料は様式1～4までございます。

皆様には事前に様式1～3までを送付しておりましたが、様式4では、日本遺産に指定された場合にどのように地域の活性化をしていくかを網羅するものになっています。

活性化計画というのが、将来のビジョンを含めて指定後の補助金を活用した3年間、その後自立して行う3年間の合計6年間の事業計画を出さなければなりません。

この計画も重要なところですが、まず皆様に見ていただきたいのは、様式3の写真集です。構成文化財の写真一覧ですが、現在、県指定名勝になっている日本寺を構成要素の中心とし、それから、当市の構成要素を拾っています。

これらの構成要素をストーリーのもとに関連づけ、それを日本遺産に認定していただくということになっております。

どのようにこれを結びつけるかですが、様式2を御覧ください。

「この山自体は、500万年前以降に火山灰が堆積し、それが隆起し、山頂に向かって北と南から力が集まり褶曲した姿が今の姿です。その成り立ちそのままに人を惹きつけています。」

このような書き出しになっています。

まず、我々が知る惹きつけられたものとしては、「関東で最古の勅願所として行基が開いた。」というストーリーで、それに伴う宗教施設を網羅しております。

次に、地元の人達がここの海産物などに惹きつけられて集まり、産業としては石材に人が集まってきたということです。石材の最古の物としては、内裏塚古墳や弁天山古墳を入れております。

この経緯として、構成要素の中には国指定のものが少なくとも1件はなくてはなりません。鋸山に関連するものでは、日本寺の梵鐘が国指定になっておりますが、それしか構成するものがないのでは少し弱いのではないかということ、内裏塚・弁天山に石材が使われているということで、国指定2件を入れております。これは、厳密には切石ではなく礫石を使っているということですが、鋸山本体を構成しているものと同じ質の石が流れ着いた果ての物を使っていますので、元は同じ物ということで載せさせていただきます。広く房州石ということで使わせていただいております。

それから、昭和60年を最後に生産が終わりましたが、非常に広範囲に渡る生産遺跡で、これが、近年の調査で全国的にも最大規模の生産跡といわれております。

それを盛り込みたいと思っておりますが、その石切場等を利用して地域の活性化等に乗出している最近の動き等も網羅しております。

最後は、その巨大な石切場等に精神世界が引き込まれる現象がございます。御存知のとおり、百尺観音も石切場跡です。その周辺も石切場の宗教施設の中に入れられます。

それから、地獄のぞきも鋸南町側と思われましたが、富津市側でもあるということが最近わかりました。鋸山の山頂がなぜ残ったかといいますと、国境を残すために山頂を残したということで、地獄のぞきの真ん中の部分が国境として意識されていたものと思われます。

境界部分の遺跡という認識でストーリーに採用したく思います。

それらのストーリーをまとめたものを様式1の「ストーリーの概要」というところに載せさせていただきます。

「安房と上総を引き分けにけり」とうたわれた房総を代表する山は、東西に伸びるその急峻な嶺の姿から、鋸山と呼ばれ、東京湾に入る船の目印とされてきた。一帯に分布する房州石は、古墳時代から石材として活用され、幕末期から本格化した採石産業は、日本の近代化を基礎から支えた。勅願所建立の命をうけた僧が惹き寄せられた東国の霊山でもある鋸山は、

かつての国境を超え、聖俗の境を超え、人や事物を惹きつけ続ける。」

このようにストーリーをまとめました。

それを更に一目でわかるようにすることがタイトルの役割なのですが、元々の県指定を基礎に作られたA案と、それをキャッチーに、他の方々にも受けるようにB案を作りました。

A案

「鋸山が生んだ自然と文化

～名勝地鋸山 大仏・羅漢石造群と石切り場跡の産業遺産～」

B案

「境界を超える天空の絶壁

～ニッポンを支えたスピリチュアル・マウンテン鋸山～」

ストーリーの内容とタイトル等について、皆様の御意見を賜りたいと考えております。よろしく願いいたします。

梶山会長

ありがとうございます。

委員の先生方、いかがでしょうか。

笹生委員

日本遺産というのは、文化財活用の方法なので、それなりの歴史的な資料なり、検証に裏付けられていなければならないと思います。

日本寺の歴史とは、これでよいのでしょうか。後ほど、濱名委員の御意見も伺いたいと思いますが、日本寺の縁起をそのまま盛り込んでよいのでしょうか。歴史的な背景も含めて盛り込むということは、「日本寺とはこのようなお寺です。」ということ公にすることになりますが、これを裏付ける資料というものは、ほとんどないと思います。

何か資料があつてこれを作っていますか。

伊藤生涯学習
課長補佐

いいえ、縁起の内容から作っています。

笹生委員

縁起だとすると、お寺の自己申告というわけですね。

私も日本寺で開発に伴って試掘をしたことがあります。やはり江戸期以降ですね。「どこに聖武天皇の勅願所のお寺があるのか。」という物が出ていません。

むしろ、私が強調すべきと思うのは、千五百羅漢ですね。ただし、この石は伊豆石を結構使っていると思いますが、この千五百羅漢を天明以降に、なぜあの場所に造り始めて、急速に日本寺が拡大していったのか。これは、「江戸の行楽地の見せ場として千五百羅漢が造られていって、それを置くための祈願の山として鋸山があった。」というストーリーのほうが

	<p>よいのではないかと思います。</p> <p>あまり古代からの名刹などを表に出してしまうのは危険ではないかと思ひます。文化財活用ですから、いち宗教法人の縁起の内容について、落としどころを見つけておかなければならないと思ひます。</p> <p>ストーリーで言ひますと、「東国の霊山は、勅願所を招き、戦国武将を招き…」というところで、この部分は、ほぼ縁起そのままの話なので、聖武天皇や慈覚大師、行基や頼朝が出てきて、という話ですので、本当なのか、ということです。資料があればよいのですが。</p> <p>まして、この梵鐘も少し疑わしく思ひます。</p>
相山会長	<p>この梵鐘は、なぜ重要文化財なのでしょうひか。</p> <p>鋸南町の話なので、よくわからないのですが。</p>
濱名委員	<p>銘がありまして、作者などが正確にわかっている物で、古い物なので国の重要文化財になっております。ただし、元々日本寺にあった物ではありません。</p>
相山会長	<p>中世の物ですか。</p>
濱名委員	<p>中世、鎌倉時代の物です。</p> <p>おそらく、その時代には日本寺はなかったと思ひれます。</p>
眞 生涯学習課長	<p>あちらのお寺は、いつの時期からかはわかりませんが、古い物を蒐集しています。文化財指定されている物がいくつかありますが、いずれもある時期に蒐集したものです。仏像彫刻なども蒐集したものが指定を受けています。ただし、国指定を受けるには、それが千葉県にあるか北海道にあるか、ということとは関係ありません。</p>
眞 生涯学習課長	<p>今のお話ですが、県指定名勝の中の文言が使われている、ということがあり、それをストーリーに盛り込んでおります。県指定名勝には先ほどのものがすべて入っております。</p>
笹生委員	<p>ただし、その指定はいつされたものか、という話ですね。</p> <p>それを令和の時代にそのままコピーして使うというのは、あまりにも芸がありません。</p>
眞 生涯学習課長	<p>その部分は、「縁起によると」という形で使いたいと思ひます。</p>

<p>笹生委員</p>	<p>「縁起によると」という割には、ボリュームが大きいですね。</p> <p>むしろ、鋸山で言うならば、浮世絵の題材になっていますし、江戸から人がたくさん来るから千五百羅漢が整備された、という関係のことをもう少し入れたほうがよいと思います。</p>
<p>梶山会長</p>	<p>徳川光圀も登山していますよね。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>していますね。光圀の話もありますので、その方向のほうがよいと思います。</p> <p>「縁起によると」とするならば、その部分はもう少し小さくしたほうがよいと思います。</p>
<p>筑紫委員</p>	<p>私も笹生委員の意見に賛成です。</p> <p>「縁起によると」程度に圧縮して、同時に石材としての石工の利用、例えば、金谷の鈴木家住宅に石切りの道具などがありますよね。そのような物を加えたらよいと思います。</p> <p>古文書で言いますと、『鈴木家文書』の中に1点か2点、江戸時代の石切りの資料があります。</p> <p>それから、横須賀ではありますが、『永島家文書』には鈴木家から横須賀に運んだという記載があります。永島家はもう残っていないかと思いますが、文書は横須賀市史でおさえてありますので、問い合わせればわかると思います。</p> <p>それから、これも横須賀市に問い合わせればわかると思いますが、浦賀奉行所の荷改めのリストで一年分だけ残っているものがあり、それに載っています。</p> <p>もし、文字資料ということで必要であれば、これらを付けられてはいかがでしょうか。</p> <p>それから、先ほど笹生委員から出ましたが、浮世絵ですが、様式3-2の『広重「房州保田海岸」』は団扇絵ですから、あまり一般的な物ではないですね。別に一般的な物があるはずですよ。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>鋸山全体を描いた物があるはずですね。</p>
<p>筑紫委員</p>	<p>ありますね。</p> <p>あとは、浮世絵の個別のシリーズの名前を入れたほうがよいと思います。房州保田海岸の前にシリーズ名を入れたほうがよいですね。『三代広</p>

	<p>重「安房国水仙花」もシリーズ名、「大日本物産図絵」を最終的にしっかりと入れて示したほうがよいと思います。</p> <p>このあたりの浮世絵については、鋸南町の菱川師宣記念館の館長が詳しいと思います。</p>
小澤委員	<p>先ほどの伊藤さんの説明の中で、鋸山が日本最大クラスの石切場であるかのような説明があったと思うのですが、それは本当なのですか。</p>
伊藤生涯学習課長補佐	<p>ストーンコミュニティーの方の意見を信じて、ということですが、明確ではありません。</p>
笹生委員	<p>それは重要だと思います。言ってしまった後では遅いですから。</p> <p>それから、日本寺で確実なものといえば千五百羅漢だと思います。これの記述のボリュームですが、「石工大野英令他弟子 27 名が 21 年かけて彫った」程度しかありません。</p> <p>実は、これは行ってみると様々な場面が展開していて、おそらくはそれを江戸から見に来ていたのでしょう。涅槃の部分や説法しているところですね。ここにストーリーがあるので、これを千五百羅漢と一括するのではなくて、このような内容の場面が再現されているという説明を膨らませていけば、縁起の部分を少し削ったとしても日本寺さんは悪い思いをしないと思います。</p> <p>千五百羅漢は坊主の石が並んでいるだけのように思われますが、そこには説法の場面や涅槃の場面が再現されていて、それが江戸からの人を呼ぶ資源になった、というストーリーのほうが立体的になると思います。</p>
小澤委員	<p>千五百羅漢は安永・天明あたりの頃のものですよね。</p>
笹生委員	<p>そうですね。石工大野英令ですから 18 世紀末ぐらいですね。</p>
梶山会長	<p>これは伊豆石が多いのですよね。</p>
笹生委員	<p>伊豆石が多いです。地元の石では溶けてしまいますから。筑紫委員、大野は木更津の生まれですよね。</p>
筑紫委員	<p>木更津の生まれです。</p>

<p>笹生委員</p>	<p>そのようなことも入れたほうがよいですね。</p> <p>場面は行ってみればわかるはずですが、本尊もそれぞれにあります。その場面の説明を具体的にさせていただきたい。当時のテーマパークのようなものです。聖地へ行って、ありがたいお坊さんのお話を聞いて、ジオラマで昔の蠟人形館のような形で見ることができる。だから、江戸から人が来る、風光明媚で綺麗な場所だったという話がベースになるのではないかと思います。</p> <p>併せて、浮世絵がたくさんある。その繋がりがあるから江戸へと石が出荷されました、という話のほうがストーリーとしては一貫性がある気がします。</p> <p>どうしても国指定を入れなければならないのならば、「石の利用は古墳時代から始まります。」ということではいかがでしょうか。</p>
<p>小澤委員</p>	<p>ここの書き方も、内裏塚が少し離れますから、但し書きが必要な気がしますね。</p>
<p>相山会長</p>	<p>「明鐘」という言葉が出てきませんが、これも入れたいですね。</p> <p>金谷城の写真は、報告書のものですか。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>そうですね。</p> <p>過去に発掘調査したときの物ですね。</p>
<p>相山会長</p>	<p>あとは、十分一役所関係で何かないでしょうか。</p> <p>ただし、湊川は伊豆から持ってきた物も金取っています。基本的に金谷からも伊豆からも無理矢理入れさせて税金取っています。</p> <p>金谷の石はどのぐらい湊川に入っているかな。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>金谷城絵図でしたら、うちの大学（國學院大學）図書館にあります。</p>
<p>筑紫委員</p>	<p>あとは、鋸南町側からも元名石という物を切り出していますよね。</p> <p>そのあたりの動きを鋸南町でどこまでしているのかを掴んでいないのですが、共同でやるのでしたら、考慮したほうがよいのではないかと思います。</p>
<p>眞眞</p>	<p>元名側の遺構ということで、様式3-2に『汐入橋』を載せております。</p>

生涯学習課長	<p>これは日本土木遺産に指定されています。 それから、元名側にも石堀がいくつかありますので、それも今後盛り込んでいく方向です。</p>
高橋委員	<p>ストーリーについてですが、書き出しはやはり、「鋸山は」のほうがよいのではないのでしょうか。何の文章なのか一発でわかるようにするために、「鋸山はこのような山だ。」ということを書いてから展開したほうがよいような気がします。</p> <p>それから、ストーリーの概要にある、「安房と上総を引き分けにけり」という文言がストーリーの中に出てきませんが、これはなぜでしょうか。余分に入れてしまったのでしょうか。大体は上の句があつてこの下の句があるはずです。これが狂歌か川柳かはわかりませんが、このあたりを直さなければならないと思います。</p> <p>我々はある程度わかるのでよいですが、知らない人が読んだときに「何の話なのか。」ということになってしまいますので、ポイントを絞る意味でも、主語は最初に持ってきたほうがよいと思います。</p>
川名委員	<p>「日本遺産」というからには、古い物を取り上げることがよいのですか。というのは、今にも繋がっている視点で日本遺産を考える立場にもしてやるのなら、例えば、水仙のことも江戸時代、保田のほうで盛んだったのでしょうか。それは古いといえ古く、新しいといえ新しいですね。</p> <p>それから、元名石のことも出ましたが、今も石材を切り出しているところはあるのでしょうか。</p> <p>というのは、一時、鋸山の近くの採石場で金谷の人が化石を拾っているというのが、よく様々なところに出ていました。鋸山そのものの近くが、良いか悪いかはわかりませんが、今も利用されています。それを考えてもよいのかなというところです。</p> <p>それから、千五百羅漢は、首を取ると良いことがあるということで、ほとんどなくなっています。この写真はよく残っていますが、これはいかがかと思います。</p> <p>つまり、切った当時は首がしっかりと付いていて、信仰のために新しく首を繋げています。日本遺産で、「千五百羅漢は大した物だ。」などと言ってしまうと、実は、上の方だけが付け替えられているということがあります。</p> <p>今は観光のことを考えて付けたと思うのですが、一時期はそのようなことがなかったのでしょうか。</p> <p>つまり、私が言いたいことは、そのような昔のものが今も続いていて、伝承があつたほうがよいのか、ないほうがよいのかどうか。例えば、私が</p>

調査した中で、漁業をする人には、鋸山に笠が被った、風が吹くだとか雨が降るだとかと、今はもうそのようなものは信じない時代ですが、少し前までは、漁師は鋸山に霧がかかったら雨が降るということなどを信じていました。

そのような新しいことまでやってよいかはわかりませんが、利用されていたことを盛り込むのはいかがでしょうか。

石切場の頂上付近で化石が出ること、そして、採石場でオキナワエビスという非常に珍しい貝の化石が採れて、金谷の家の玄関にお宝として置いてあるという話を聞いたことがあります。

このA案・B案を見たときに、A案に「鋸山が生んだ自然と文化」、B案が宗教的に見たようなもので、私はA案がよいのではないかと思います。それで、「鋸山の自然」というと石だけなのかとも考えました。

植物の名前で、ノコギリヒゴタイと命名されている植物が『千葉県植物誌』に書いてあります。

そこまで考えた場合に、今のことまで触れるか、「そうやって鋸山があるのだ。」というストーリーに持っていくのか、「以前はこうだった。」で終わってしまうのか、それを私はずっと考えていました。参考にはならないと思いますが、意見を言わせていただきます。

高梨委員

委員の先生方から御指摘された御意見をお聞きしまして、確かにおっしゃるとおりだと思います。

私も気がつかなかった点がありましたが、この「日本遺産」というものは、どちらかと言えば観光資源ですから、そのあたりを意識しているように感じます。その意味では、個人的にこれはよく作られていると思いました。

御指摘がありましたように、やはりおかしい点は直していかなければならないと思います。

ただし、やはり観光資源という立場から見れば、わかりやすく、見たときに「行ってみたいな。」と思わせる迫り方も必要ではないかと思います。

それから、川名委員からお話があった点ですが、例えば、様式3-2に絵葉書などの写真が載っています。いかがでしょうか。石切場を見ると、すべて金谷側のものではないかと考えるのが普通だと思います。私も記憶がはっきりとしませんが、『絵葉書 車力道下の石材置場』はおそらく鋸南側の資料ではないかと思います。

伊藤生涯学習
課長補佐

そうですね。

高梨委員

つまり、川名委員がおっしゃるように、鋸南側でも採石は行われていました。そのようなところから、元名石という名称も出てきたのではないかと

ということです。

では、どのあたりで切り出されていたのか、ということですが、資料に地図がありますね。真ん中のあたりが稜線ですね。手前が北側・金谷側になるわけですが、南側、現在の鋸南ダムのあたりで採石が盛んに行われていたと聞いております。

それから、もう少し南側に、今は営業していないと思いますが、保田温泉という温泉がありました。その奥の方に大きな石切場があり、やはり化石マニアがよく行く場所があります。

ということで、元名側からも結構切り出していたと思われます。ですから、もう少し鋸南側の資料も欲しいと思います。そして、それを入れることができれば、さらに良くなると思いました。

それから、出典を忘れてしまいましたが、江戸の町から東京湾の出口を見たときに、水平線の一番奥のあたりに見えたのが、どうやら鋸山のあたりだったそうです。

明治の頃には保田に定期航路がありまして、夏目漱石もそれを利用したそうで、おそらく観光地で、一度は行ってみたい場所だったのではないかと思います。

ですから、そのような経緯を上手く表現していったらよいと思います。

筑紫委員

近世史の研究では、金谷や鋸南付近の研究はありませんが、江戸を中心とした行楽の研究が盛んになっています。ですから、そのような視点は非常に大事だと思います。

江戸から西の方でいえば、鎌倉・江ノ島・三社参りなどですね。

信仰というよりは行楽という視点での研究です。日本遺産という新しい流れの中では、行楽・物見遊山という視点でストーリーを構成していくのも一つの手ではないかと思えます。

鈴木委員

関連してですが、日本遺産がそもそも地域活性化を目的としたものです。今まで文化財は保護・活用の面でしたが、先ほどの観光の面も相当強く打ち出しています。

また、ちょうど地理的にも鋸山のある位置自体が、今日では首都圏から日帰りできる場所にあります。私も昨年12月に登りました。相当な観光客で、ロープウェー乗り場は30～40分は並びますよね。皆様待っていますし、車はずっと渋滞しています。鋸山に行く人は道の左に寄るようという形で、一大観光地になっているように感じます。

それから、鈴木裕士さんがストーンコミュニティーで相当頑張っているあの姿をもっと打ち出してもよいのではないかと思います。シンポジウムを含めて、一貫して町づくりを積極的に行っていることは、日本遺産には特に大事なことだと言っているのではないかと思います。

日本遺産は、文化財保護の立場からはウェイトが変わっていきま

	<p>申請も全国から相当数が集まると思います。そのうち、16件程度しか1年で認定されませんよね。余程インパクトがない限り消えてしまう気がします。</p> <p>千葉県で、佐原から銚子までのエリアが認定されていますが、「房総の牧」は認定されていなかった。</p>
<p>相山会長</p>	<p>されていませんね。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>そうですね。</p> <p>ですから、相当競争率が高いはずですよ。</p> <p>文言を含めてインパクトのある内容でない限り、日本遺産の審査委員会で見過ごされてしまうと思います。</p> <p>なので、もっと強く打ち出してもよいと思ったのが、例えば、様式1-1の『鋸山全景（南西から）』はそれほどインパクトがないように感じます。これを一番上にしてしまうとぼやけてしまう気がします。『地獄のぞき』ならば、それをもっとクローズアップする等しなければならないと思います。</p> <p>それから、タイトルについてですが、房総自体が低名山です。「房総の低名山鋸山の自然と文化」や「鋸山の魅力」の中にサブタイトルで「大仏・羅漢石造群と石切り場跡の産業遺産」が入ってくるのだと思います。</p> <p>「鋸山が生んだ自然と文化」というのがぼやけるように感じます。もっと強く打ち出してもよいと思います。もちろん、そのためにはストーリーと関連づけなければなりません。</p> <p>もっとイメージが湧く、「あっ、もっとこれを見てみたい。」と思うようなものが必要だと思います。</p> <p>大体60から70ぐらいの申請があると思います。この大変な中から16件程度しか通らないのですよね。そう考えると、最初にインパクトが重要だと思います。</p>
<p>筑紫委員</p>	<p>今、TBSで日本遺産を紹介する旅番組がありますよね。</p> <p>あれは文化庁監修ですよね。</p> <p>横須賀の軍港も取り上げられていました。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>笹生委員が紹介された鹿島神宮の話ではありませんが、鋸山を是非、あの番組で取り上げてほしいと思います。</p> <p>これは日本遺産と平行してですが、一方でここまで取り組んでいますから、そのようなところもあってよいのではないかと思いました。</p>
<p>小坂委員</p>	<p>少しよろしいですか。</p> <p>様式3-2の中の『日本土木遺産 汐入橋』とはどこにあるのですか。</p>

<p>眞 生涯学習課長</p>	<p>保田です。</p>
<p>梶山会長</p>	<p>金谷の鈴木さんの活動はだいぶ前からやられていて、石の研究会のようなことをやっていますので、その成果を何か取り入れたいとも思います。 私も全国を見ていて、金谷石よりも大谷石のほうが大きいかもしれません。福井の笏谷にも古くからありますし、出雲にも石のミュージアム（来待ストーンミュージアム）のところにあります。そのようなことも踏まえていくと面白いかもしれません。笏谷は歴史遺物が非常に多いです、出雲にも博物館があるほどです。 いずれにしても、凝灰岩の石というものは全国的に使われやすいものです。金谷石も、井戸杵には水に強い石、竈には火に強い石とあるようです。ストーンコミュニティーの研究も何か入れておきたいところです。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>事務局では御存知かと思いますが、今年度の日本遺産に認定されたものに関して、過日の新聞記事に載っていました。 例えば、播州赤穂のタイトルは、「日本第一の塩を産出したまち播州赤穂」で、「日本第一」というインパクトのある書き方をしています。</p>
<p>梶山会長</p>	<p>鋸山の一番は何でしょうか。 江戸の人達の遊びが一番大きかったのではないのでしょうか。当時の観光地ですし。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>石も確かに重要なのですが、日本遺産は、全国的なインパクトがどれだけあるか、というものでなければならないと思います。ローカルな話をどれだけしてもダメだと思います。 全国的にどうかという場合には、やはり「江戸前」や「江戸の町人の物見遊山の地」、「江戸の人々を惚れさせた」といった話のほうがよいと思います。 その中で、江戸との繋がりや石の話をしたほうがインパクトもあります。赤穂には「塩」がありますし、銚子などは「醤油」と「成田山」で日本遺産になりましたから、誰もが聞いていて、「そうだな。」と思うところが多いです。</p>
<p>梶山会長</p>	<p>鹿野山や鋸山は、遊びに行くところでしたからね。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>江戸の観光地から近代化遺産ですよ。 「近代を支えた鋸山」などのほうがよいですよ。</p>

<p>笹生委員</p>	<p>そのほうがよいでしょうね。</p>
<p>高梨委員</p>	<p>この金谷石は近代化に向けて需要がありましたが、ある時期になると、結局は大谷石に競争で敗れるのですよね。あちらのほうが模様が美しい。そうこうするうちにコンクリートが登場する、そのような側面も実はあります。</p> <p>ですから、地元の想いは理解できますが、そのような石を頭に持ってきてしまうのはいかがでしょうか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>鋸山は、石とそれ以外のものがあります。</p> <p>しかし、石一つにしてもそれは歴史ですから、残しておくべきもので、それを消してしまう必要はないと思います。消してしまっは意味がなくなってしまうからです。</p>
<p>濱名委員</p>	<p>結局、何を売りたいか、ということはストーリーの概要に集約していると思うのですが、「房州石が、古墳時代から石材として活用され」というのがまず最初に出てきますが、これは、必ずしも先ほどの話のように鋸山そのものの石ではなく、まして、切り出された物でもありません。</p> <p>次に、「幕末期から日本の近代化を基礎から支えた」というのは、そこまで言えるのでしょうか。</p> <p>さらに、「勅願所建立の命を受けた僧が引き寄せられた」というのは、これはもう伝承に過ぎないですよ。行基のことを言っているのですが、行基は畿内地域からほとんど外に出たことがないことは歴史の上では常識になりますので、この3つを売りたい部分としてストーリーを組み立てていくのだとすると、苦しくなると思います。</p> <p>もう少し、戦略は別のところに据えて、ある程度歴史的なことを基にしなければ、苦しくなると思います。</p> <p>鋸山自体が非常に魅力のある場所だということは間違いありませんし、現に、多くの人を集めていますから、歴史的に違うことを言って苦しくなるというのは、得策ではないと思います。</p>
<p>笹生委員</p>	<p>申請はいつまでに出すのでしたか。</p>
<p>伊藤生涯学習課長補佐</p>	<p>12月から1月が申請の時期なのですが、7月から11月にかけてが文化庁に相談する期間とされています。</p>

梶山会長	<p>第一海堡・第二海堡も一番外側は伊豆の石ですが、金谷石もかなり使われていますよね。海堡の芯の部分です。そのためかなりの量を運んでいるはずですよ。</p> <p>大谷の川便に比べて、金谷の船便のほうが量を運べたのだと思います。最初に船便利用でかなり運んでいるはずですよ。そのあとになれば、大谷石も運ばれますが。あちらはどんどん、地下へ地下へと掘っていますから。</p>
高梨委員	海堡関係は古文書に出てきますか。
筑紫委員	『永島家文書』には出てきますが、一番頑丈なところには伊豆石が使われています。ただし、一番運びやすいので、房州石を使っています。品川台場にも使われています。
梶山会長	お台場については、幕府でどの石をどれだけ運んで来るようにということを行っていますからね。
筑紫委員	品川台場と浦賀奉行所の古文書1年分が丸ごと残っています。元名石が結構入っていますね。
小坂委員	最近、第二海堡が崩れてきていて砂が必要なので、当時使っていた富津の砂がほしいということを知ったことがあります。岩ではなく砂だそうです。
梶山会長	砂ですか。
小坂委員	以前は富津に砂埋めというものがあまして、富津岬の先端から砂を採っていましたから。
筑紫委員	<p>品川台場の場合は、島をつくるわけですから、最初に俵に土を詰めて、それを投下して石を詰めるという手順です。</p> <p>俵は、今の習志野などから空き俵を集めています。それから、高輪まで行って土を詰めて投下し、島をつくります。それが最初の基礎になります。だから、先ほどの砂かもしれないですね。</p>
高梨委員	筑紫委員、『永島家文書』の件ですが、金谷の石工の親子が船で切石を持ってきて、いくら払ったという記述があったと記憶しています。

筑紫委員	<p>400 両ぐらいでしたね。</p> <p>ただし、活字になっているものとなっていないものがまだあります。活字には『永島家資料集』で出ています。それには少し、鈴木家の名前も出てきます。</p>
梶山会長	<p>持っていきかたをもう少し上手く考えなければなりませんね。</p> <p>位置的にも、金谷城がもう少し何かに使えないかとも思います。</p> <p>「房州との境」だということを入れながら、保田と一緒にやろうと言っているところも面白さを持たせられるのではないかと思います。鋸山の石切場の石切り道具の話も加えながらやれるとよいのではないかと思います。</p> <p>そして、観光地にしていく以上は、江戸時代の人々がどのように来ているかも入れられるとよいかもしれません。</p> <p>光圀が鋸山にわざわざ登っているのは、沿岸防備も兼ねているのではないかと思います。</p> <p>江戸の観光地として、浮世絵なども集めてみてはいかがでしょうか。浮世絵を入れていくことで、観光地としてアピールできるのではないのでしょうか。</p>
鈴木委員	<p>基本的なことをお伺いしますが、鋸南町と合同で協議会を発足したそうですが、ここで審議している資料は、鋸南町と合同で作っているということでしょうか。</p> <p>鋸南町の元名石の話も出ております。元名には、石を積み出した港がありますよね。使っている状況があります。鋸南町からは、また様々な意見が出てくるのではないかと思います。</p>
高梨委員	<p>事務局に御用意いただいたストーリーの概要で、古墳時代について、観光の側面があるにせよ、指定文化財に房州石が使われているということは、やはり謳うことが必要かと思えます。</p> <p>おそらく転石を使っているのだと思いますが、鋸山の直下の海岸なのか、あるいは、似たような地層からなのかは少々わかりかねますが。</p> <p>弁天山の天井石は、取っ手の部分を加工してますよね。</p>
梶山会長	<p>あれはこちらの石ではありませんね。</p>
高梨委員	<p>そうですよね。</p>

	<p>探してみたのですが、あまり似たような物がなくて微妙な部分もありますが、石室に積んである石は使えると思います。</p> <p>ですから、指定文化財で使われている物も踏まえて書いていかなければならないかと思います。</p>
小澤委員	<p>今、高梨委員から御指摘があった点ですが、鋸山から一番近いところでは松原古墳が転石を使っています。</p>
梶山会長	<p>小澤委員、森山塚や割見塚の切石は何を使っていますか。</p>
小澤委員	<p>あれは砂岩です。鋸山の石とは全然違うように感じます。</p>
笹生委員	<p>鋸山の石に比べてきめ細かいですね。</p>
小澤委員	<p>豆腐のように真っ白で、軟質砂岩のような感じです。</p> <p>古墳時代と一概に言うのは、私は少し抵抗を感じます。</p>
梶山会長	<p>これもきりがいい話になりますので、ある程度時間で切るしかないと思います。</p> <p>何回か鋸南町とも打ち合わせをしていただきながら、委員の先生方の希望も少し入れていただきたい。</p> <p>先生方の御意見もいただきましたので、また少しまとめていただきたいと思っております。よろしいでしょうか</p>
委員一同	<p>(異議なし)</p>
梶山会長	<p>それでは、御了解をいただきましたので、議題についてはこれで終了といたします。</p> <p>その他で、事務局何かございますか。</p>
桐村副主幹 (事)文化係長	<p>事務局としては、その他はございません。</p>
梶山会長	<p>委員の皆様、いかがでしょうか。</p>

	<p>私も一つ気になったのですが、鋸山は日本遺産とは別に史跡指定等してもよいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
笹生委員	<p>本当は、鋸山を国指定まで持って行ってそれを核に日本遺産にする、というのが一番正常な形だと思います。</p>
楢山会長	<p>千葉県のやり方では、石切場なら石切場で部分的でも許可のいただけるところを市指定にして、そしてそれを県指定にするという方法もあります。</p> <p>ですから、日本遺産の動きもよいのですが、一方で、文化財としてできることは、そのようなやり方もあるかと思います。</p>
笹生委員	<p>県からも日本遺産については取り組むように言われているのですよね。</p>
伊藤生涯学習課長補佐	<p>先ほどいただいた、鋸山を指定にというお話ですが、鋸南町側で「鋸山と羅漢石造群」が県指定名勝に指定されております。その範囲を広げる中で国指定に持っていかうという話は挙がっています。文化庁からも国指定はあるのではないかとお話をいただいております。</p>
小澤委員	<p>日本遺産はエリアの線引きは、なければならぬのですか。</p>
伊藤生涯学習課長補佐	<p>それはありません。</p>
笹生委員	<p>日本遺産とは、文化財の活用を重視しようというものですよね。</p>
小澤委員	<p>今、県指定になっているところは私有地なのですか。</p>
笹生委員	<p>ほぼお寺が持っています。</p>
楢山会長	<p>こちら側で石切場だけを指定して、あとで合わせてもよいかと思いません。</p> <p>それでは、ここで終わりにしたいと思います。 あとは事務局にお返しします。</p>

<p>眞 生涯学習課長</p>	<p>長時間にわたって御審議いただき、ありがとうございました。</p> <p>先ほどの日本遺産については、100 件のうち残り 16 件という形です。今年度は 72 件申請がありまして、認定は 16 件でした。狭き門ではございますが、皆様の御意見を参考にしながら進めていきたいと思ひます。</p> <p>以上を持ちまして、令和元年度第 1 回富津市文化財審議会を終了させていただきます。お疲れ様でございました。</p>
---------------------	---